

A 思想史研究におけるデジタル化と刊本・手稿の意義

世話人：長尾 伸一（名古屋大学）

報告者：松波 京子（名古屋大学附属図書館）

飯田 賢穂（日本学術振興会）

討論者：隠岐 さや香（名古屋大学）

近年刊本や手稿のデジタル化が急速に進み、従来内外の貴重図書室を訪れたり、研究者自身が購入しなければならなかった資料へのアクセスが飛躍的に容易になってきている。このような研究資料の「デジタル化」は、アクセス・コストの削減だけでなく、思想史研究の方法にも質的な変化をもたらすのだろうか。また資料論という点からみて、はたしてデジタル化の進行は、刊本や手稿そのものを使った研究を不要にしていくのだろうか。本報告では「ホブズ・コレクション」など、名古屋大学所蔵の思想史資料のデジタル化の実例を紹介して、それが研究上何を可能にするかを示しつつ、これと対比して刊本や手稿の研究の実例を報告し、それぞれの可能性を比較して、デジタル化の時代における思想史研究の在り方を資料の点から考えた。

< 報告の内容 >

名古屋大学経済学研究科では、2017年度科学研究費助成事業研究成果公開促進費を得て、名古屋大学附属図書館の協力によって、2018年7月末から「名古屋大学附属図書館西洋古典籍デジタルライブラリー」を公開した。本事業では、所蔵資料の書誌研究にも対応できるように、できる限り刊本等の全体を高画質で撮影して公開することを目指した。それはテキストの読解にとどまらず、書誌的研究までがデジタル化によって容易になることを示している。

一方本事業を遂行する前後で、名古屋大学附属図書館では大学図書館所蔵『エミール』初版の判定作業を早稲田大学・坂倉裕治教授に依頼し、共同で調査を行った。またこれを基に、デジタル化されたデータと、刊本や手稿そのものを使用した研究方法の利点と問題点の検討を行った。この調査では、貴重図書室を使って実際に資料を手取る方法でしか可能でない研究があることも明らかになった。

本セッションの報告では、これらの調査・経験を通じて、西洋古典籍の高画質なデジタル化資料が多数公開されることによっていかなる研究が可能になったのか、また実際の資料と併せて調査することにより今後どのような研究成果が期待できるのかを、以下のような具体的な事例を用いて紹介した。最初に松波会員が西洋古典籍デジタルライブラリーの紹介を行った。次に『エミール』初版の版本作成過程に関する坂倉教授の調査を紹介した。最後に飯田会員が、18世紀フランス思想研究におけるデジタル資料の扱いに関する近況を報告した。具体的には、『百科全書』等の巨大な作品群のデジタル校訂プロジェクトの紹介、およびルソーの直筆手稿に関する研究の現状（特にデジタル撮影画像の現段階での限界と今後の研究方法の見通し）を考察した。

全体の討論では、以上の報告を踏まえ、以下のように、今後の思想史研究におけるデジタル化と刊本・手稿の意義を総括した。

<ディスカッションの内容>

隠岐会員（名古屋大学）のコメント：

松波報告に関して：日本における西洋古典籍のデジタル化は財政的にも図書館側の理解という面でも極めて厳しい状況にあるが、今後日本における西洋古典籍デジタル化の意義や、現物を保管する意義について伺いたい。【回答】そもそも、日本に存在する西洋古典籍の重要性を図書館側が認識していないし、それに対する我々研究者側の発信も不足している。西洋古典籍のデジタル化は単体では行われているが、それを連携する段階にはなく、今後それぞれのデータベースを連携することは技術的には可能であろうが、その方法が全く見通せない。しかしながら、日本国内に大量に保管されている西洋古典籍を鑑みれば、我々が受容してきた思想・文化という側面も描けるのではないか。

飯田報告に関して：デジタル・ヒューマニティーズの弱点（2次元的な特徴を、以下に1次元情報として埋め込むのか）はさまざまなデータベースプロジェクトで行われているが、そこで開発された新しい“(プログラム) 言語”などに汎用性はあるのか。【回答】それぞれのデータベース構築の際に行われている“タグ付け作業”については統一しようという動きがある。現段階ではそれぞれのプロジェクトが独自で“タグ付け作業”などを行っていることは間違いないが、しかし同時に進行しているプロジェクトを全く考慮していないということではない。今後を見据えた作業も行われている。しかし、プラットフォームの統一は難しい。

フロアからの質問とコメント：

現在、市販されているOCRの精度はどれぐらいなのか。このようなプロジェクトには利用できないのか。【回答】手稿は全く読み取れない。ドイツのひげ文字や中世の活字なども同様で、そのため、独自の文字認識ソフトを開発しているケースもある。「名古屋大学附属図書館西洋古典籍デジタルライブラリー」作成時に、日本で市販されているOCRソフトを使用してみたが、ほとんど役に立たなかった。ただし、アメリカで市販されているOCRソフトはかなり精度が上がっているという話も聞くので、利用できるかもしれない。

日本で西洋古典籍の現物を利用する“強み”はあるのか。【回答】ひとつは、手稿に関しては世界で唯一のものであるのでそれだけで意義がある。他方、西洋古典籍については、詳細な書誌情報を世界に発信するというモデルケースをつくるという貢献の仕方があるのではないか。